



令和 6・7 年度 東京都教育委員会 人権尊重教育推進校 1 年次報告

研究主題

自他を大切にし、互いに認め合うことのできる児童の育成

～ちがいを受けとめ、思いを伝え合う活動を通して～



はじめに

本校では、学校教育目標である「すすんで学び 表現する子」「思いやりをもって 行動する子」「明るく元気に 運動する子」の育成を目指しています。令和 6・7 年度は東京都教育委員会より人権尊重教育推進校の指定をいただき、「自分も人も大切にする緑野小学校」を合言葉に、学校教育目標の具現化を図ってまいりました。そのための研究主題が、「自他を大切にし、互いに認め合うことのできる児童の育成 ～ちがいを受けとめ、思いを伝え合う活動を通して～」です。人権に関わる基本的な知識を正しく学び、正しく判断できるだけでなく、自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動に移せる子どもたちを育てていくために、本研究に取り組んでまいりました。研究指定校 1 年次である今年度は、教員自らが人権教育について深く学ぶため、6 回の授業研究の他に講話やフィールドワークを実施し、研鑽を重ねてまいりました。まだまだ道半ばではありますが、ここでこの 1 年間の研究成果をまとめ、2 年次の研究につなげてまいります。

結びに、本校の研究推進にあたりご指導いただきました講師の先生方、このような学びの機会を与えてくださいました東京都教育委員会を始め、関係諸機関の皆様に感謝申し上げます。

中野区立緑野小学校 校長 太巻 美青

中 野 区 立 緑 野 小 学 校

主題設定の理由

本校教員から児童の実態について、「他者との関わりが苦手」、「他者に対して無関心」な児童が多いとの声が挙がった。各教科等で児童が自分と相手では感じ方や考え方がちがうことを理解し、尊重し合おうとする態度を育成することで、一人ひとりがかけがえのない存在であることに気が付けたい、自分や相手、社会で生活する様々な人たちとよりよい人間関係を築く力を育みたいと考え、本主題を設定した。

研究構想図

人権に関する法令など

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
- ・世界人権宣言
- ・児童の権利に関する条約
- ・東京都人権施策推進指針
- ・東京都教育委員会教育目標
- ・中野区教育委員会教育目標

学校教育目標

- すすんで学び 表現する子(学び合う子)【重点目標】
 - 思いやりをもって 行動する子(かかわり合う子)
 - 明るく元気に 運動する子(きたえ合う子)
- ～わくわく緑野小学校～

目標策定の方針

- ・児童の実態
- ・家庭・地域の願い
- ・教職員の願い
- ・社会の要請
- ・新しい教育の動向 など

学校経営重点目標

- すすんで学び 表現する子
- 思いやりをもって 行動する子
- 明るく元気に 運動する子
- 学校力の向上
- 他校・保護者・地域との連携

人権教育に関する児童の実態

- ・自己肯定感が低く、集団への所属意識が薄い。
- ・自分の興味や関心があることや仲のよい友達以外に対して関心が薄い。

学校の人権教育目標

家庭や地域と密接な連携を図り、全教育活動を通して、自ら考え、判断し、行動する力、主体的に学ぶ力、優しさや思いやりなど自他を認め尊重する心、生命を大切に美しいものや自然に対して感動する心をもつ子どもを育てる。

研究主題

**自他を大切にし、互いに認め合うことのできる児童の育成
～ちがいを受けとめ、思いを伝え合う活動を通して～**

研究仮説

各教科等において自他のちがいを理解し、受けとめ、尊重する教育活動や環境づくりを行うことで、自他の価値に気づき、多様性を認め合い、よりよい人間関係を築こうとする児童が育つであろう。

目指す児童像

低学年

自分や友達のよさに気付くことができる子

中学年

自分とその周りで生活する相手とのちがいを理解し、互いに認め合おうとする子

高学年

社会には様々な人が生活していることを理解し、相手の立場を想像して物事を考え、自分と相手を大切にする子

研究主題に迫るための視点と具体的な児童の姿

視点1

- 課題に気付く。
- 根拠をもって考える。

視点2

- 自分の考えを分かりやすく伝える。
- 相手の考えを受けとめる。

視点3

- 意見の共通点、相違点を捉える。
- 相手の立場に立って考える。

視点4

- 自分とのちがいのよさに気付く。
- 物事の見方を広げる。

人権教育を通じて育てたい資質・能力を高めるための手だて

教職員の人権意識の向上

- 校内研修
- フィールドワーク
- 人権研修

授業の充実

- 伝え合う活動の重視
- 一人ひとりのちがいを生かした手だての工夫

日常的な取組

- スピーチ活動
- よさ見付け
- なかよし班(縦割り)活動

環境の整備

- 人権標語
- 人権コーナーの設置
- 代表委員会ポストの活用

第1学年 生活科 単元名「なつとともにだち『みずであそぼう』」

単元の目標

身近な自然の違いや特徴を見付け、自然を使った遊びの面白さに気付くとともに、自然を取り入れて自分の生活を楽しくしようにすることができるようにする。

人権教育の視点 (普遍的な視点からの取組)

身近な自然や物を使い、みんなと楽しみながら遊びを創り出す活動を通して、生活を豊かにしようとする態度を育てる。

手だて

- ・小単元の中に「試しの体験活動」と「実践の体験活動」を設定し、「見通し」、「体験活動」、「振り返り」の学びのサイクルを回すことで、児童の思いや願いを実現していく単元指導計画を作成する。

成果と課題

- ・友達の考えを褒めたり、受け入れて真似したりする姿が増えた。
- ・生活科の目標と人権教育の目標をどのように組み合わせていくかについて、さらに学びを深めていく必要がある。



第2学年 学級活動(1) 題材名「2年3組のオリジナルのはたをつくろう」

題材のねらい

話合いのめあてを意識して自分の意見を話したり、友だちの意見のよさを伝えたりして合意形成を図る。

人権教育の視点 (普遍的な視点からの取組)

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、合意形成を図る活動を通して、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション能力を高める。

手だて

- ・人権教育の視点に即した話合いのめあてを設定する。
- ・出された意見を黒板上で操作しながら整理することで、自分や友達の考えが明確に分かるようにする。

成果と課題

- ・めあてを意識して、どの意見も大切にしようとする姿が見られた。
- ・児童の日常的な表現力を高め、自分の考えを分かりやすく伝えられるように指導する必要がある。



第3学年 特別の教科 道徳(公正、公平、社会正義) 主題名「誰に対しても同じ態度で」

ねらい

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平に接しようとする態度を育てる。

人権教育の視点 (普遍的な視点からの取組)

友達との関わりの中で、自らの行動や考え方を見つめ直す登場人物「ぼく」の気持ちを考えることを通して、誰に対しても分け隔てをせず、公正で公平な社会を実現しようとする意欲や態度を育てる。

手だて

- ・多様な考え方に会わせるための3人1組のグループ学習や、机配置等に工夫をする。
- ・学んだことを実生活と結び付けるための振り返りを行う。

成果と課題

- ・3人1組の活動を通して、意見の共有をしながら互いに認め合う姿が見られた。
- ・公正、公平の普遍的な価値を児童に意識させるため、具体的な場面を想起させる指導方法を工夫する必要がある。



第4学年 総合的な学習の時間 単元名「わたしたちにできることを考えよう」

単元の目標

障害者を支える人々の取組や思いに気づき、共生社会の実現について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

人権教育の視点 (個別的な視点からの取組)

障害者の生活について理解を深める活動を通して、心のバリアなど障害者に対する偏見や差別意識を解消するために思いやりをもって共生できる社会の実現を目指そうとする意欲や態度を育てる。

手だて

- ・ 友達の考えを取り入れ、自分の考えを深めるための意図的なグループを編成する。
- ・ 障害者の方々と共に生きるためにどうすればよいか、体験活動や資料提示によって、自分でできることを考えさせる。

成果と課題

- ・ 一人ひとりの課題追究の成果を共有することで、多様な視点に気づく機会となった。
- ・ 方法論に留まらず、心情的にも偏見や差別を解消しようとする態度を育てていく必要がある。



第5学年 社会科 単元名「情報化した社会と産業の発展『情報を生かすわたしたち』」

単元の目標

情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを捉える。

人権教育の視点 (個別的な視点からの取組)

情報の収集・発信における個人の責任や情報モラルについて考えることを通して、インターネット上において他人を誹謗中傷したり差別を助長したりすることは、人権侵害であることを理解させる。

手だて

- ・ インターネットによる人権侵害について、自分ごととして考えられるように、児童の関心や日常生活に即した問いを工夫する。

成果と課題

- ・ 自身の行動に責任をもち、インターネットによる人権侵害を解消するために具体的な取組を考える姿が見られた。
- ・ 個別の人権課題の解消に迫るためには、人権そのものに対する理解や人権感覚を日常的に育む必要がある。



第6学年 体育科 単元名「病気の予防」

単元の目標

病気の予防をするために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。

人権教育の視点 (個別的な視点からの取組)

病気の予防に関する正しい知識を身に付けることを通して、HIV感染者やエイズ患者に対する偏見や差別の実態について理解させる。

手だて

- ・ HIVウイルスについて正しく理解させるための教材の工夫（他教科・領域とカリキュラム連携した指導計画の工夫）

成果と課題

- ・ 人権課題について理解を深め、偏見や差別は許されないものと捉える児童が多く見られた。
- ・ 偏見や差別の構造を考えさせ、児童の理解をさらに深める必要がある。



人権の空・人権標語

低・中学年では、言われて嬉しい言葉や使うと気持ちがいい言葉を考え、それを空の絵に表現した。

高学年では、様々な人権課題を知り、感じたことを標語にした。

人権感覚を日常的に高める校内環境づくりに取り組んでいる。



小中連携あいさつ運動

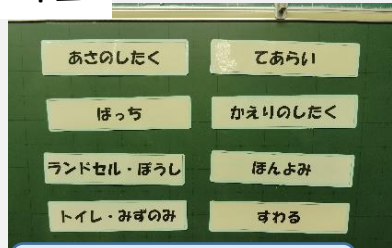
代表委員会では、「明るく楽しい緑野小学校」を今年度のテーマに掲げ、年間を通じてあいさつ運動に取り組んでいる。また、近隣の緑野中学校の生徒と合同であいさつ運動を実施した。あいさつすることで互いを思いやる心を育てている。



日常的な取組の共有

人権教育を通じて育てたい資質・能力を身に付けたり、高めたりするために、各学年で、実施してきた日常的な取組を全校で共有している。

1年生



行動指示の視覚化

2年生



今日のきらきらさん

3年生



言葉を大切にする活動

4年生



ほめ言葉のシャワー

5年生



考えを伝え合う話型指導

6年生



活発な係・集会活動

フィールドワーク (教員研修)

学芸員の方の説明や映像、展示品からハンセン病とはどのような病気であり、どのような人権侵害を強いられていたのかを学んだ。

国家のハンセン病対策が原因で、患者、回復者や家族の方々の人権が侵害された実情と、隔離生活の実態は想像を絶するものであった。偏見や差別をなくすために、教育者である私たちができることについて深く考えさせられた。ハンセン病問題は、今もなお存在している問題として私たち一人ひとりが正しい知識を身に付け、考え続けていくことが大切であると強く実感した。

国立ハンセン病資料館



実施日：令和6年8月27日(火)

研究の成果と課題

成果	○意図的に友達と意見を共有する場面を設定することで、児童が互いの考えのよさに気づき、それを認め合う姿勢が見られるようになってきた。 ○人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むために人権教育の視点を意識した授業や校内研修を積み重ねたことで、教員の人権感覚が高まった。
課題	○児童が自分ごととして捉えられる発問の検討が必要である。 ○児童同士が意見を認め合い、ともに学ぶ学習環境づくりが必要である。 ○普遍的な視点からの取組で身に付けさせたい力を明確化する必要がある。

謝辞

副校長 宮崎 宏之

研究指定校1年次である今年度は、人権教育プログラムの内容・構成について講話をいただいたり、フィールドワークとして「国立ハンセン病資料館」を見学したりして、人権に関わる基本的な知識を学ぶところから始めました。全6回の研究授業では、低・中・高学年の各分科会で「各教科のねらい」「人権教育の視点」を明確にして実践してまいりました。1年次の成果と課題、改善点を明らかにし、教員の人権感覚をさらに高めながら、人権教育をさらに推進してまいります。結びに、本校の研究推進にあたりご指導いただきました講師の先生方、このような学びの機会を与えてくださいました東京都教育委員会・中野区教育委員会を始め、関係諸機関の皆様に心より感謝申し上げます。

研究に携わった教職員

		校長 太巻 美青		副校長 宮崎 宏之	
学級担任		1 組	2 組	3 組	
	1 年	渡邊 朱実	勝沼 一貴	中島 千世子	
	2 年	浅見 康子	佐々木 零	田後 瑛士	
	3 年	加藤 ひかる	深谷 幸太郎	鳥羽 千佳/綿貫 辰巳	
	4 年	竹田 知代	岡本 雅史	森 日穂	
	5 年	大野 里空	長郷 友美	高橋 秀茂	
	6 年	後藤 顕	長坂 大樹	◎植松 慶太	
専科等		(算数少人数) 綿貫 辰巳 (音楽) 坂本 梓 (図画工作) 松宮 友希子 (理科) 松本 寛生 (養護) 横濱 汐音	◎研究推進委員長		

ご指導いただいた講師の先生

有明教育芸術短期大学学長	若林 彰 先生(R6. 6 月)
文京区立誠之小学校校長	土屋 秀人 先生(R6. 7 月)(R7. 1 月)
国立館大学体育部こどもスポーツ教育学科教授	喜名 朝博 先生(R6. 9 月)
東京女子体育大学体育学部体育学科名誉教授	田中 洋一 先生(R6. 10 月)
白梅学園大学教職教育研究センター教授	森 清隆 先生(R6. 11 月)